

幹線増幅器
品番 TA8134
取扱説明書

DXアンテナ株式会社

このたびは、DXアンテナ製品をお買い上げいただきありがとうございます。

この製品を正しく理解し、ご使用いただくために、取扱説明書をよくお読みください。

お読みになった後は、いつでも見られるところに保存してください。

◎安全上のご注意



△記号は注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。
図の中に具体的な注意内容（左図の場合は警告または注意）が描かれています。



○記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近くに具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。



●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は注意して行なってください）が描かれています。



警告

この内容が無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

- テレビ受信関連工事には技術と経験が必要です。お買い上げの販売店もしくは工事店にご相談ください。



- 表示された電源電圧（交流20～40ボルト）以外の電圧で使用しないでください。火災や感電の原因となります。



- この製品の本体を引っ張り強さ0.39kN以上の金属線または直径1.6ミリメートル以上の軟銅線で接地してください。接地しないと避雷や保護接地の効果がなくなり、火災や故障の原因となります。



- 高所に設置する場合は、足場と安全を確保して行なってください。落ちたり、倒れたりして、けがの原因となります。



- 風の強い日や、雨、雪、雷などの天候の悪い日は、危険ですから設置工事や点検をしないでください。落ちたり、倒れたりして、けがの原因となります。



- この製品に接続する同軸ケーブルには電流が流れることがありますので、途中には通電形機器以外は絶対に挿入しないでください。通電形機器を挿入する場合は、通電端子をよく確かめてお使いください。もし、非通電形機器を挿入しますと、回路やケーブルがショートして、火災や感電の原因となります。



- この製品に接続する同軸ケーブルには電流が流れることがありますので、製品と接栓の接続および接栓と同軸ケーブルの接続で、心線と外部導体がショートしないようにしてください。火災や感電の原因となります。



- この製品に水が入ったり、ぬれたりしないようにご注意ください。雨天での設置工事や点検・調整で蓋を開けないでください。
火災や感電の原因となります。



- この製品を設置・点検・調整した後は、正しく蓋およびモニターキャップを閉めてください。
水が入ったりして、火災や感電の原因となります。



- 万一内部に水が入った場合は、まずこの製品に供給している電源を切り、水をよく拭き取ってから、電源を供給してください。
そのまま使用すると火災や感電の原因となります。



- この製品を分解したりしないでください。また、お客様による修理や改造はしないでください。感電やけがの原因となりますし、性能維持ができなくなり、故障の原因となります。



- 万一、煙が出ている、変な臭いがするなどの異常状態のまま使用すると、火災や感電の原因となります。すぐにこの製品に供給している電源を切り、煙がでなくなるのを確認してCATV施設の管理者もしくは工事店に修理をご依頼ください。



- 取り付けネジやボルトや接栓は、指定している力(トルク)で締め付け、堅固に取り付け固定してください。落下や破損して、感電やけがや故障の原因となります。



- この製品や部品および工具類を高い所から落とさないでください。
けがの原因となります。



- この製品のヒューズは同一規格の容量および形状のものをご使用ください。また交換の際は、電源ユニットのコネクターをはずすなど、必ず電源が供給されていない状態で行なってください。
火災や感電の原因となります。



- 雷が鳴り出したら、この製品にはふれないでください。
感電の原因となります。



目 次

1. 機 器 概 要	2
2. 特 長	2
3. 使用上の注意	2
4. 各 部 の 名 称	
(1) 本体部	3～4
(2) 増幅部ユニット	5～6
(3) AVRユニット(AVR-522)	7
5. 操 作 説 明	
(1) 各部の取り付け、取りはずし	8～10
(2) ケーブルの接続	11～12
(3) 通 電	12～13
(4) 下り信号の調整	14～16
6. 付 属 品	16
7. 規格とブロックダイアグラム	
(1) 規 格	17
(2) ブロックダイアグラム	18
8. 外 観 図	19
9. 備 考	20～21

1. 機 器 概 要

この製品は、CATVシステムの伝送ラインにおいて、VHF11波（アナログ）＋MID 9波（地上デジタル）＋BS-IF 8波（デジタル）＋PL1波を伝送することが可能な250MHz帯CATVシステム改修型770MHz帯幹線増幅器です。

2. 特 長

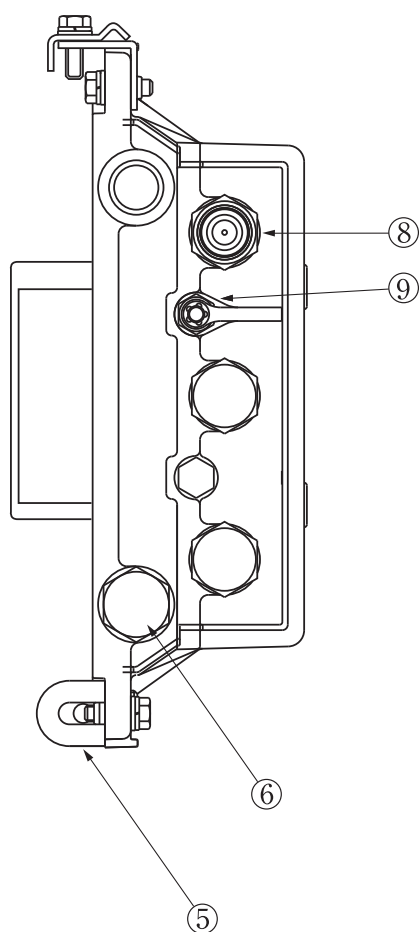
- ・入出力の反転が可能な小形軽量のアルミダイカストケースを採用し、放熱効果にも優れています。
- ・シリコンパッキンの採用により、防水効果は確実です。
- ・電磁シールドの採用により、電波漏洩対策も万全です。
- ・通電ケーブルの操作で、本体給電、重畳給電それぞれに対応します。（通電容量15A）
- ・アンプ運用時にダイカストケース外側からパイロットランプの確認ができます。

3. 使用上の注意

1. AC入力電圧が規定値であることを、AVRユニットの電圧チェック端子においてテスターで確認してください。
2. 各端子の通電電流容量は最大5Aとなっていますから、必ずこの値以下で使用してください。
※電源入力端子（本体給電端子）はAC40V・5A以下です。
3. 増幅器本体左側面下のアース端子を引っ張り強さ0.39kN以上の金属線または直径1.6mm以上の軟銅線により大地に接続してください。
4. 脱落防止のため、フタ締付ボルトは引っぱらないでください。
5. フタを閉める時は、防水パッキンが曲がっていないことを確かめ、フタ締付ボルトで締め付けてください。また、取り付けや調整の際、雨水や湿気が増幅器内部に入った時は、水分を乾いた布でよく拭き取ってからフタを閉じてください。
※拭き取るときは溶剤等を使用しないでください。
※防水パッキンにはシリコングリス等を一切塗布しないでください。
※フタ締付トルクは $4 \pm 0.5 \text{ N} \cdot \text{m}$ で均一に締め付けてください。
6. 使用しない電源挿入口は、必ずシリコングリスを塗布したM18ネジフタでしっかりふさいでおいてください。M18ネジフタの締付トルクは $12 \pm 1 \text{ N} \cdot \text{m}$ で締め付けてください。
7. 同軸給電をする場合は、別売りの同軸給電用電源アダプターPY-111をご使用ください。締付トルクは $12 \pm 1 \text{ N} \cdot \text{m}$ で締め付けてください。
8. フィッティング接栓の締付トルクは $12 \pm 1 \text{ N} \cdot \text{m}$ で締め付けてください。
9. デジタルTV放送信号は、アナログTV放送信号に比べて-10dBの運用レベルになっていますのでご注意ください。

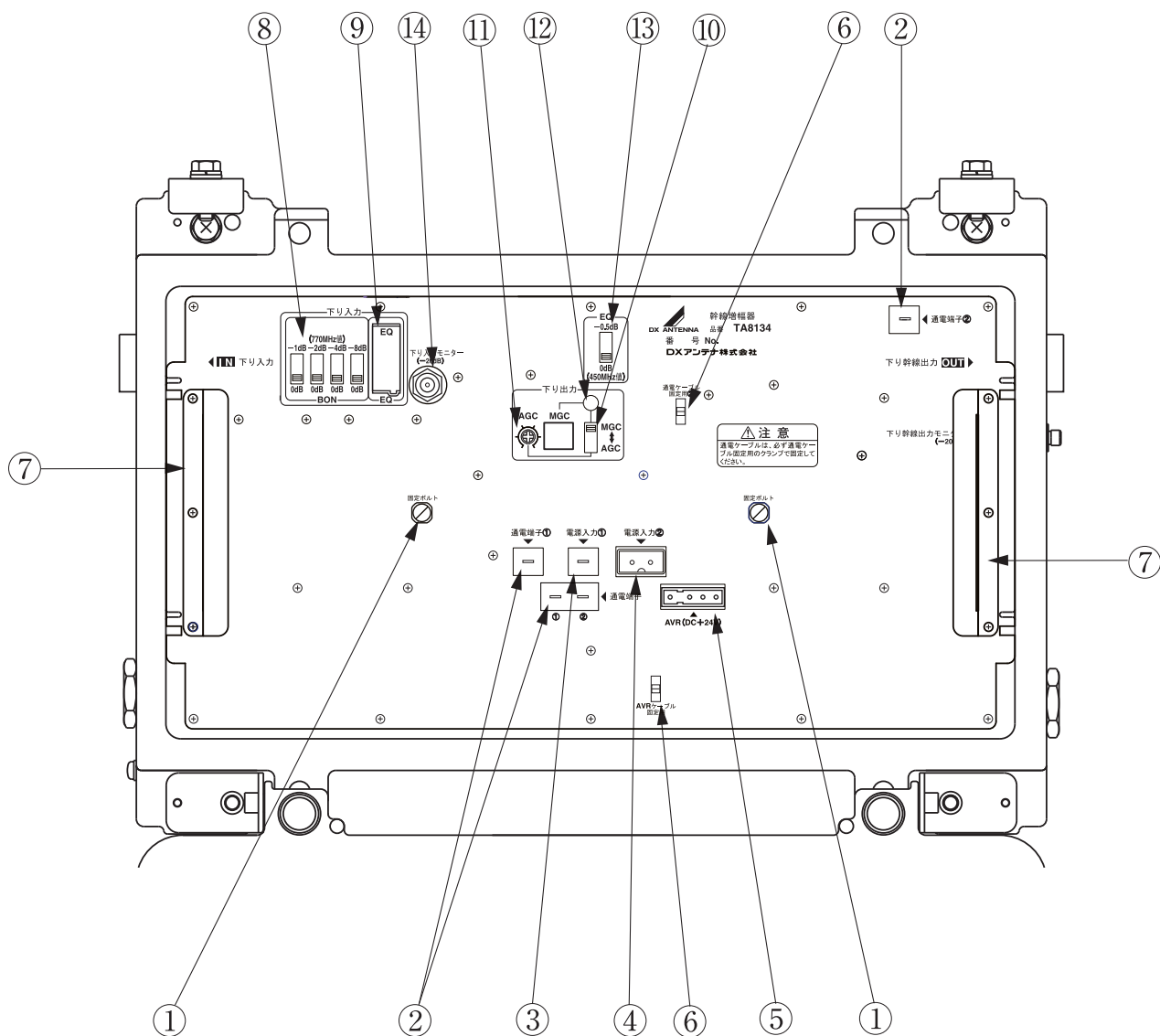
(1) 本体部





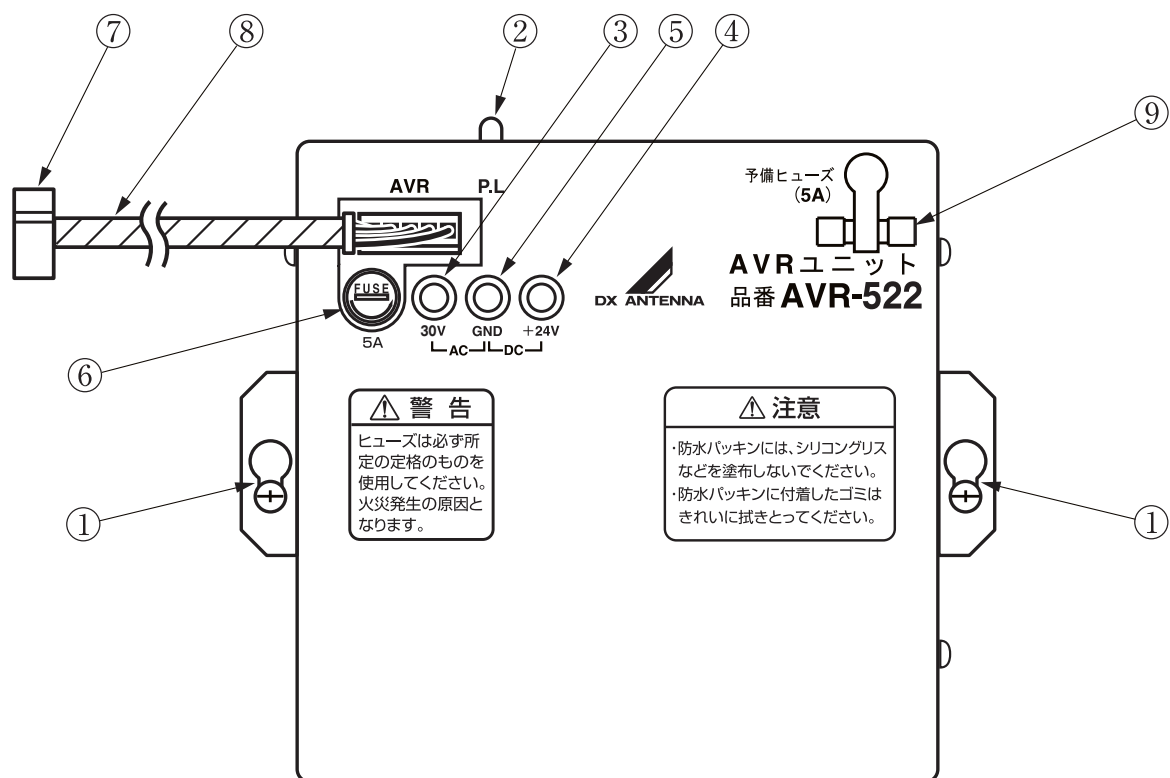
- ① ダイカストケース本体
- ② ダイカストケースフタ
- ③ フタ固定ボルト（4本）
- ④ メッセンジャーワイヤ固定金具（2個）
- ⑤ ヒンジ金具（2個）
- ⑥ 電源挿入口（2か所）
- ⑦ 下り入力端子
- ⑧ 下り幹線出力端子
- ⑨ 下り幹線出力モニター端子
- ⑩ 増幅部ユニット
- ⑪ AVRユニット（AVR-522）
- ⑫ シリカゲル
- ⑬ アース端子

(2) 増幅部ユニット(TA8134ユニット)



- ① ユニット固定ボルト (2本)
- ② 通電端子 (4か所)
- ③ 電源入力①端子 (本体給電端子)
- ④ 電源入力②端子 (本体給電コネクター)
- ⑤ AVRコネクター
- ⑥ ケーブル固定用クランプ (2か所)
- ⑦ ハンドル (2か所)
- ⑧ 下り入力BONスイッチ (4か所)
(770MHz 0～-15dB加算式)
- ⑨ 下り入力EQユニット挿入口 (EQU-13□□)
(出荷時はEQU-1316 (16dB)が装着されています)
- ⑩ MGC-AGC切換スイッチ
- ⑪ AGC出力レベル調整ボリューム
- ⑫ パイロット信号確認LED
- ⑬ 下りEQスイッチ (モップアップ: 450MHz)
0dB、-0.5dB切換式
- ⑭ 下り入力モニター端子

(3) AVRユニット (AVR-522)



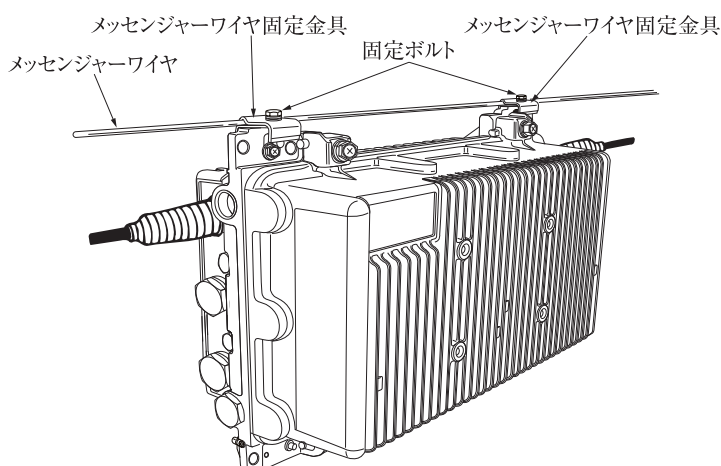
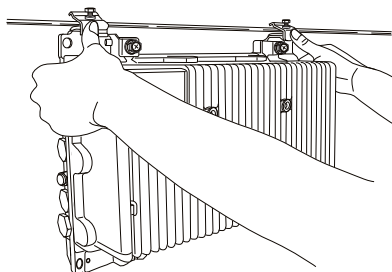
- | | |
|--------------------------|---------------------|
| ① ユニット固定部 (2か所) | ⑥ ヒューズ (5A、ミゼットタイプ) |
| ② パイロットランプ | ⑦ AVRコネクター |
| ③ AC電圧チェック端子 | ⑧ AVRケーブル |
| ④ DC電圧チェック端子 | ⑨ 予備ヒューズ |
| ⑤ 電圧チェック用GND端子 (AC、DC共通) | |

5. 操 作 説 明

(1) 各部の取り付け、取りはずし

1-1) 本体の取付方法

＜メッセンジャーワイヤへの取付け＞



メッセンジャーワイヤは $\phi 5 \sim \phi 11\text{mm}$ (20~95mm²)のワイヤを使用してください。

※締付トルクは、 $4 \pm 0.5\text{N} \cdot \text{m}$ でしっかりと取り付けてください。

※取りはずしは、製品が落下しないように注意のうえ、固定用ボルト(2本)を緩めてから取りはずしてください。

※壁面・ポールへの取り付けは、専用金具(壁面用:PY-101、マスト用:PY-102)が必要です。別途、お求めください。

1-2) フタの開閉

※雨などにより、機器内部がぬれると機器の故障の原因となることがあります。雨や雪など天候の悪いときには、フタの開閉などの作業は、行わないでください。

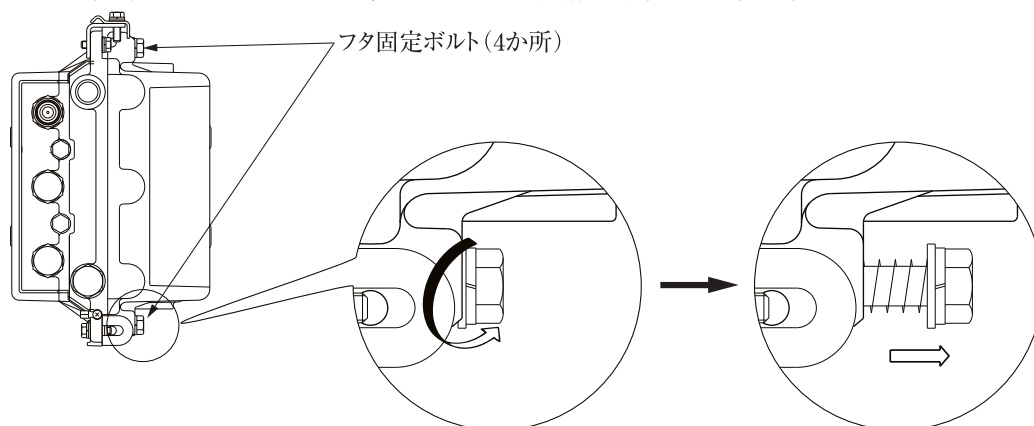
また、万一機器内部に水や湿気が入ったときは、水分をよく拭き取ってからフタを閉じてください。

※この製品には、機器内部の乾燥のためにダイカストケースフタ部にシリカゲルを付けています。青色のシリカゲルの色がうすくなったり、ピンク色に変色した場合、シリカゲルの吸湿効果が低下していますので交換してください。

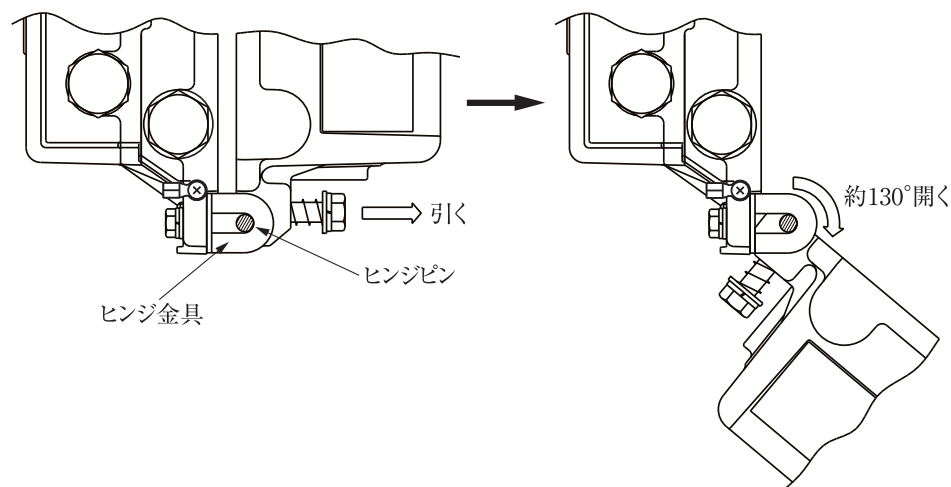
＜フタを開ける＞

①上下4本のフタ固定ボルト(M8)を徐々に緩めます。

※フタ固定ボルトはスプリングにより自動的に浮き上がりますので、強く引っ張らないでください。固定ボルトを引っ張るとボルト抜け防止Oリングがはずれ、ボルト脱落の原因となります。



- ②ヒンジピンがヒンジ金具の先端に当たるまでダイカストケースフタを手前に引き出し、ゆっくりと開けてください。



<フタを閉じる>

- ①本体とフタとの合わせ面や防水パッキンの汚れや水分を乾いた布できれいに拭き取ってください。
※拭き取る時は溶剤等を使用しないでください。

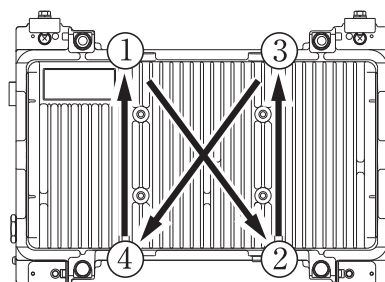
- ②フタを本体に押し当て、上下4本とも手で軽く締め付けてください。

- ③その後に図の①～④の順に数回にわけて、 $12 \pm 1 \text{ N} \cdot \text{m}$ で均一に締め付けてください。

※締め付けが不十分であったり、均一に締まっていない場合、防水性が保たれない場合がありますので、注意してください。

※防水パッキンには、シリコングリスなどを塗布しないでください。

※フタを閉じるときは、AVRユニット等のケーブルをはさみ込まないように注意してください。



1-3) 下り増幅部ユニット (TA8134ユニット)

このユニットをダイカストケース本体から取りはずす場合、まず、本体プレート板のクランプから全てのケーブルをはずします。

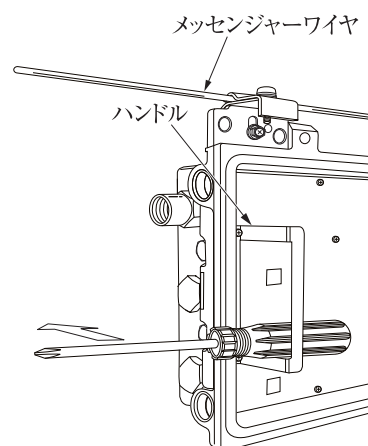
次にこのユニットに接続された各コネクタをはずし、固定ボルト(2本)を(-)ドライバーで緩めてください。その後、左右のハンドルを両手で持って引き抜いてください。

抜きにくい場合は、右図のようにダイカスト本体とハンドルの間にドライバー等を入れ、引き抜いてください。

※本体給電している場合は、電源アダプターPY-111をダイカストケース本体からはずしてから行なってください。

※取り付けは、取りはずしの逆の作業を行なってください。取付時には固定ボルトは、 $1 \pm 0.2 \text{ N} \cdot \text{m}$ でしっかりと締め付けてください。

※増幅部ユニット裏面とダイカストケース本体との接触点は、放熱効果を良くするため、放熱シリコン(東レSC-102相当品)を塗布しています。ユニットを交換するときは、同様に放熱シリコンを塗布してください。



1-4) AVRユニット (AVR-522)

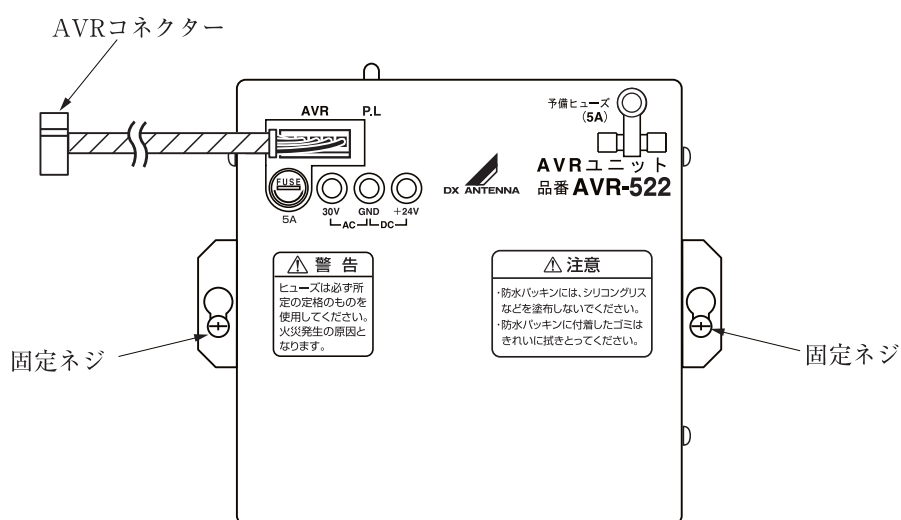
このユニットを取りはずす場合、増幅部ユニット (TA8134ユニット) に接続されたAVRコネクターをはずし、固定ネジ (2本) を緩め、ユニットを上下方向にずらし取りはずしてください。

※このユニットとダイカストケースフタとの接触面は、放熱効果を良くするため、放熱シリコン (東レSC-102 相当品) を塗布しています。ユニットを交換するときには、同様に放熱シリコンを塗布してください。

※ユニット交換の際、シリカゲルを交換後のユニットに取り付けてください。

※取り付けは、取りはずしの逆の作業を行なってください。

取付時には $1 \pm 0.2 \text{ N} \cdot \text{m}$ でしっかりと締め付けてください。



(2) ケーブルの接続

2-1) 入出力同軸ケーブル

- ①入出力端子には入出力ケーブルに合ったフィッティング接栓（ミリネジタイプ）を使用し同軸ケーブルを接続してください。フィッティング接栓の締付トルクは、 $12 \pm 1 \text{ N} \cdot \text{m}$ で締めてください。
※ダイカスト本体とのネジ部には、シリコングリス（東レシリコンHVG相当品）を薄く塗布してください。
- ②接続の終わった接栓には自己融着テープ、および、ビニルテープで防水処理を施してください。
- ※入出力同軸ケーブルに電源を重畳する場合は、JIS規格ケーブル（JIS C3503、8C以上のパイプケーブル）をご使用ください。また、各入出力端子の通電容量は最大5Aです。入出力端子への通電は、この値以下でご使用ください。※電源入力端子（本体給電端子、コネクター）の通電容量はAC40V、最大5Aです。
- ③使用しない出力端子には、別売りのフィッティングダミー（電流カット形：当社品番DFD-75FT）を接続してください。フィッティングダミーの締付トルクは、 $12 \pm 1 \text{ N} \cdot \text{m}$ で締めてください。

2-2) 電源ケーブル

＜同軸ケーブルによる本体給電＞

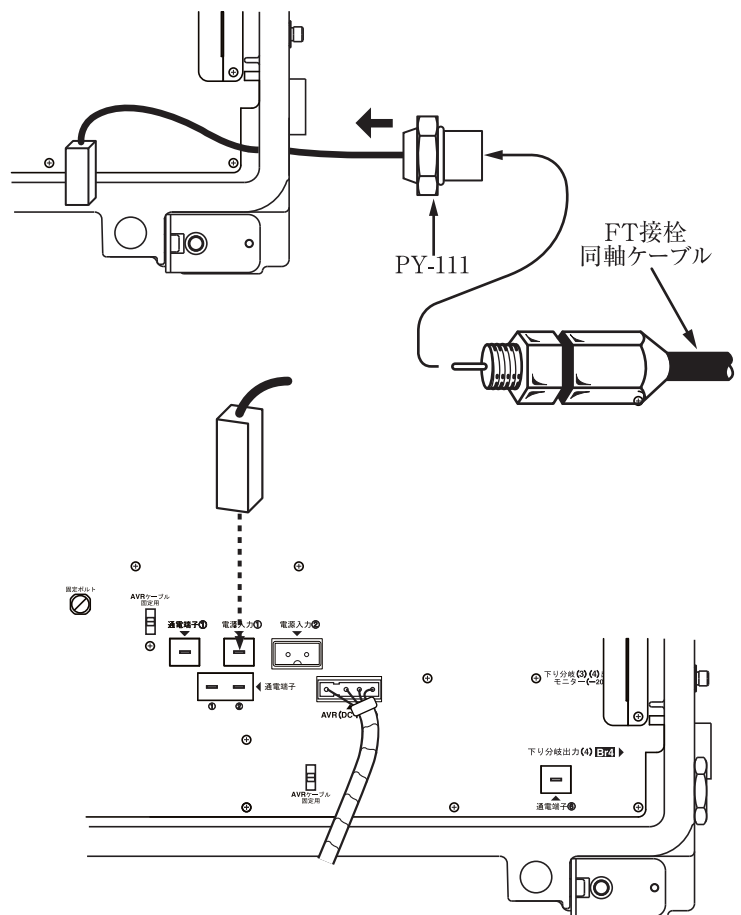
- ①同軸ケーブルによる本体給電をする場合、別売りの同軸給電用電源アダプターPY-111をダイカストケース本体の電源挿入口に取り付けてください。締付トルクは、 $12 \pm 1 \text{ N} \cdot \text{m}$ で締めてください。
- ※ダイカスト本体とのネジ部には、シリコングリス（東レシリコンHVG相当品）を薄く塗布してください。（コネクター本体のOリングにはシリコンを塗布しないでください。）
- ②PY-111の先端のコネクターを電源入力①端子（本体給電端子）に接続してください。
- ③取り付けの終わったPY-111に、給電用ケーブルに合ったフィッティング接栓を使用しケーブルを接続してください。フィッティング接栓の締付トルクは、 $12 \pm 1 \text{ N} \cdot \text{m}$ で締めてください。

※電源挿入口は左右に各1か所ありますので
便利な方をご使用ください。

※電源ケーブルには、JIS規格ケーブル（JIS C3503、8C以上のパイプケーブル）をご使用ください。

また、各端子の通電容量は最大5Aです。それぞれの端子への通電はこの値以下でご使用ください。

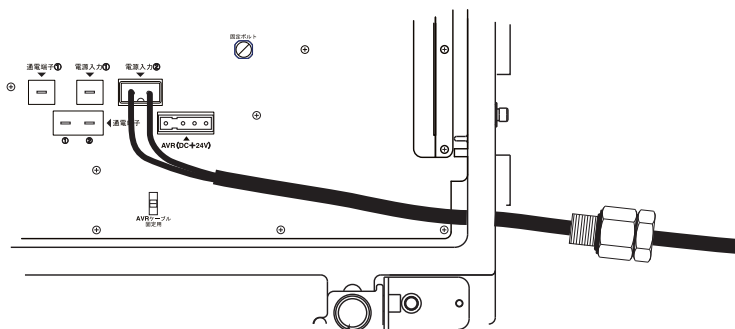
※使用しない電源挿入口にはシリコングリス（東レシリコンHVG相当品）を塗布したM18ネジフタ（端子に付属）でしっかりふさいでおいてください。ネジの取付トルクは、 $12 \pm 1 \text{ N} \cdot \text{m}$ で締めてください。シリコングリスは、ネジ部に薄く塗布し、Oリングには塗布しないでください。



＜キャプタイヤケーブルによる本体給電＞

- ①キャプタイヤケーブルによる本体給電をする場合、キャプタイヤケーブルの先端コネクタを電源入力②端子（本体給電コネクタ）に接続してください。

※電源挿入口は左右に各1か所ありますので
便利な方をご使用ください。



2-3) アース

この製品は正しい接続方法で確実に接地してください。正しく接地されない場合、本来の性能が保証されず、感電や故障の原因となります。

接地工事は電気事業法で定めるD種接地工事（100Ω以下）を行なってください。また、接地線は、引っ張り強さ0.39kN以上の金属線またはφ1.6mm（2mm²）以上の軟銅線を使用し、アース端子に付属の圧着端子で圧着し接続してください。アース端子（圧着端子）の取付ネジは、1±0.2N・mでしっかりとダイカストケース本体に取り付けてください。

(3) 通電

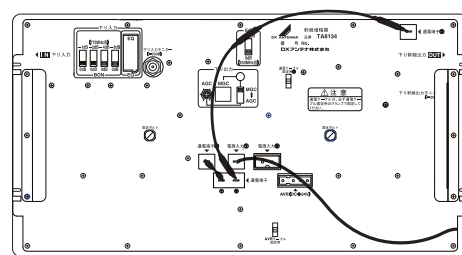
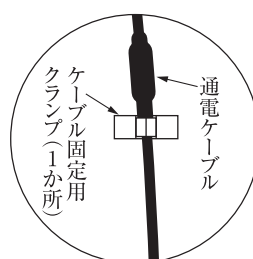
3-1) 通電切換

通電ケーブルの接続によりIN、OUTそれぞれへの通電操作が可能です。

- ①本体給電時に入出力端子に通電する場合。

電源入力端子横にある通電端子①、②と各端子の通電端子①、②とをそれぞれ通電ケーブルにて接続してください。

接続後、必ずケーブル固定用クランプでケーブルを固定してください。



※各入出力端子の通電容量はそれぞれ最大5Aです。各端子への通電は、この値以下でご使用ください。

3-2) AVRの動作

①通電され、動作しているAVRについて、以下の確認ができます。

- ・パイロットランプ……………AC電圧を受電し、DC電圧を出力している場合に点灯します。

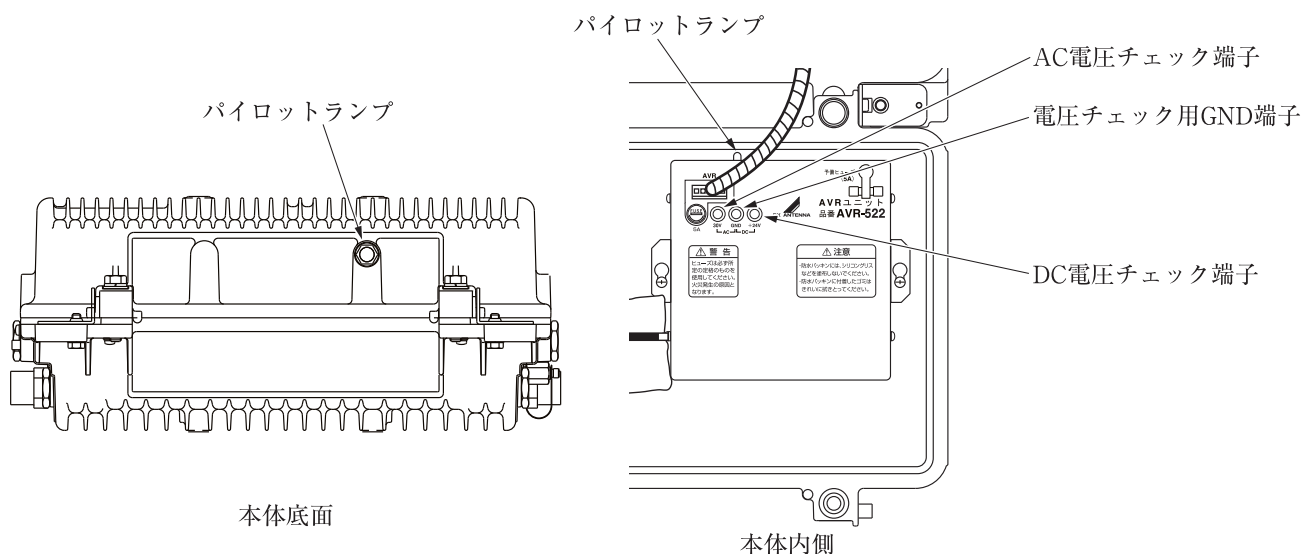
ダイカストケース外側からも確認できます。

- ・AC電圧チェック端子 … AC入力電圧の確認ができます。

AC20～40Vであることをご確認ください。

- ・電圧チェック用GND端子…AC電圧またはDC電圧測定時のGND端子です。

- ・DC電圧チェック端子 … DC+24V出力電圧の確認ができます。DC+24Vであることをご確認ください。



②ヒューズ (5A、ミゼットタイプ)

ヒューズが切れた場合は、原因を確かめてから交換してください。ヒューズ交換時は、必ず通電されていない状態（AVRコネクターを増幅部ユニットより抜いた状態）で行なってください。

※ヒューズは、容量および形状が違うものを使用しないでください。火災、感電、故障の原因となることがあります。

※ヒューズ交換時は、必ずパイロットランプが消灯していることを確認してください。AVRコネクターを増幅部ユニットより抜いてもパイロットランプが点灯している場合は、AVR内部に充電電圧が残っている状態ですので、電源入力端子（本体給電端子）に接続されている通電ケーブルを抜いた後、AVRコネクターを増幅部ユニットへ接続して充電電圧を放電してください。パイロットランプは消灯します。

(4) 下り信号の調整

下り信号の調整は、増幅部ユニットの各スイッチ、EQユニット1dB～16dB（品番EQU-1301～1316）を使用して行います。

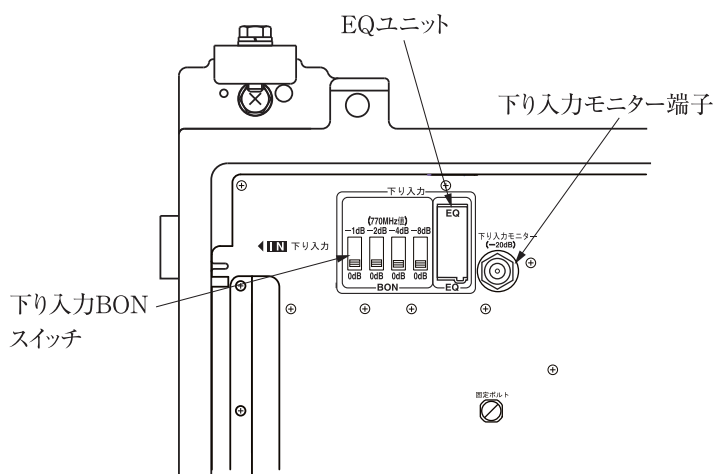
※下り信号過入力防止のため、システム設計値の入力BON値を設定してください。

※スイッチ等の操作には、調整ドライバーを使用し、無理な力や回転を加えないでください。

※EQユニット差し換え時は、奥までしっかりと挿入してください。

4-1) 入力レベルの調整

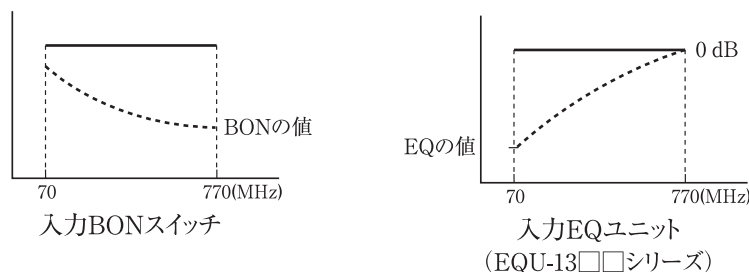
①入力レベルの測定



下り入力レベルは、付属のモニター用コネクタを使用し、増幅部ユニットの下り入力モニター端子で測定できます。この端子では入力BON、EQ後の信号が入力レベルより20dB低い値でモニターできます。

②入力レベルの調整

入力レベルの調整は、入力BONスイッチ、EQユニットで行います。入力BONは、入力レベルをケーブル等化（8Cケーブル相当）で770MHzのレベルを-1dB～-15dBまでスイッチの操作で調整できます。入力EQは、入力レベルをケーブル等化（8Cケーブル相当）で70MHzのレベルを-1dB～-16dBまで差し換えて調整できます。また、この2種類の調整機能は加算できます。



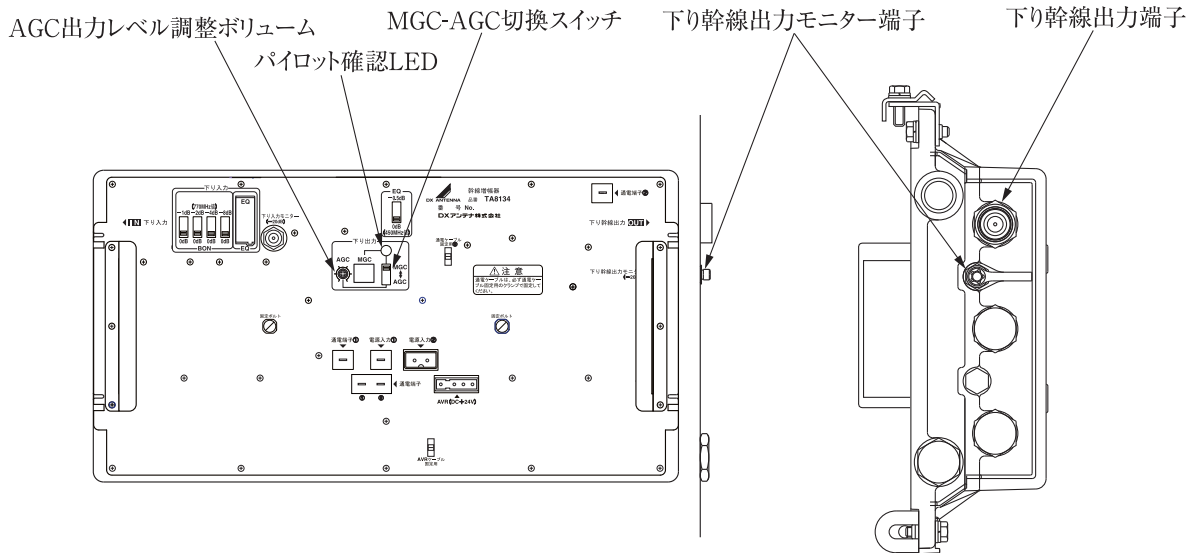
※標準入力レベル(70/246/250/770MHz値)（モニターレベル）

75.1/69.5/69.3/59.5dB μ V（39.5/39.5/39.5/39.5dB μ V）…EQ16dB(EQU-1316)挿入時

4-2) 幹線出力レベルの調整

① 幹線出力レベルの測定

下り幹線出力レベルは、本体右側面の下り幹線出力モニター端子で測定できます。この端子では、幹線出力レベルより20dB低い値でモニターできます。



② 幹線出力レベルの調整

幹線出力レベルの調整はMGC-AGC切換スイッチ、AGC出力レベル調整ボリューム（注1）で行います。パイロット信号の入力レベルが標準入力レベルより約10dB以上下がった場合、自動的にMGC動作に切り換わり、パイロット確認LEDが点灯します。

（注1）工場出荷時、MGC-AGC切換スイッチは、MGC側になっており、標準入力レベルで入力すれば、標準出力レベルで出力されるよう調整していますので、必要のない限り、AGC出力調整ボリュームは触らないでください。

※MGC-AGC切換スイッチを工場出荷時のMGC側で、標準出力レベルになるように入力BONスイッチおよびEQユニットを差し換えて、微調整してください。

MGCでの調整終了後、MGC-AGC切換スイッチをAGC側にし、MGC側で調整した出力レベルになることを確認してください。

※MGC、AGC時、それぞれ標準出力レベルを確認・調整し、実際のシステム運用時には、MGC-AGC切換スイッチをAGC側にしてAGC動作にしてください。

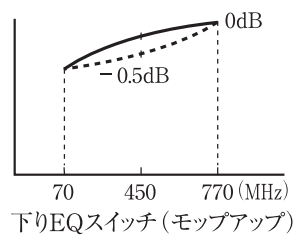
※標準幹線出力レベル（70/246/250/770MHz値）（モニターレベル）

86.9/92.5/92.7/102.5dB μ V（66.9/72.5/72.7/82.5dB μ V）

※下り幹線出力モニター端子で測定した後は、モニターキャップを $1 \pm 0.2\text{N} \cdot \text{m}$ で締め付けてください。

4－3) 下りEQスイッチ（モップアップ）の操作

下りEQスイッチの切り換えにより70MHzと770MHzのレベルを固定とし、450MHzのレベルを－0.5dB調整できます。カスケード接続時の調整等にご使用してください。



6. 付 属 品

予備ヒューズ（5A、ミゼットタイプ、AVRに付属）	1本
アース端子用圧着端子（アース端子に付属）	1個
M18ネジフタ（電源挿入口に付属）	2個
通電ケーブル	2本
モニター用コネクター	1個

7. 規格とブロックダイアグラム

(1) 規 格

項 目 (単位)		性 能
		TA
周 波 数 帯 域 (MHz)		70～770
最 大 伝 送 波 数 (波)		VHF11(アナログ)+ MID 9(地上デジタル)+ BS-IF 8(デジタル)+ PL 1 (注1)
標 準 入 力 (dB μ V)	70MHz	75.1
	250MHz	69.3
	770MHz	59.5
標 準 出 力 (dB μ V)	70MHz	86.9
	250MHz	92.7
	770MHz	102.5
標 準 利 得 (dB)	70MHz	11.8
	250MHz	23.4
	770MHz	43.0
A G C 特 性 (dB)		入力 ± 2 に対して0.3以内
帯 域 内 周 波 数 特 性 (dB)		± 0.5 以内
利 得 安 定 度 (dB)		± 0.5 以内
雑 音 指 数 (dB)		9以下 (注2)
ハ ム 変 調 (dB)		-70以下
C S O (dB)		-77以下
C T B (dB)		-87以下
V S W R		1.5以下
電 源 電 圧 (V)		AC20～40
消 費 電 力 (VA)		約15 (AC30V時)
不 要 放 射 (dB μ V/m)		34以下 (IEC法による)
耐 雷 性 (kV)		± 24 (1.2/50 μ s)
使 用 温 度 範 囲 (℃)		-10～+40
外 形 寸 法 (mm)		270.5(H)×379(W)×162.2(D)
質 量 (kg)		約9

備考

フラットロス 8dB対応

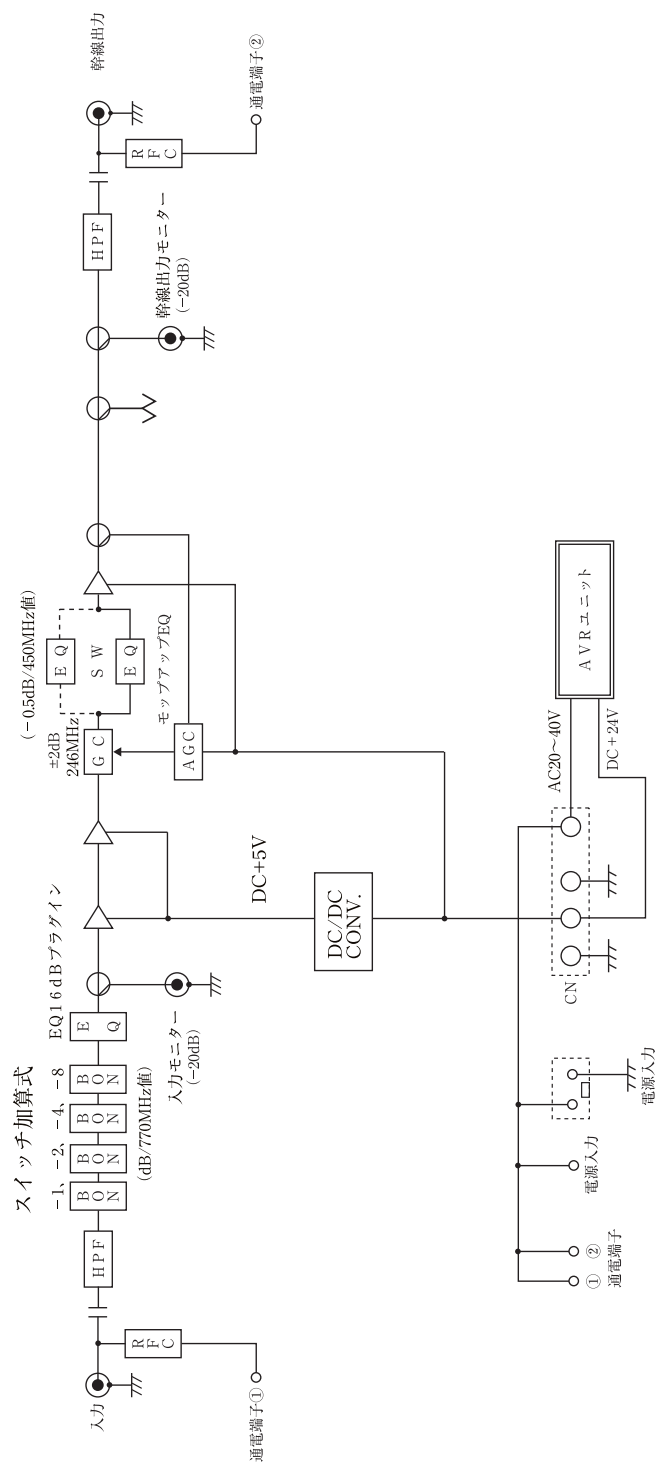
入力BON (-1、-2、-4、-8dB スイッチ加算式)

パイロット信号 (PL) 246MHz

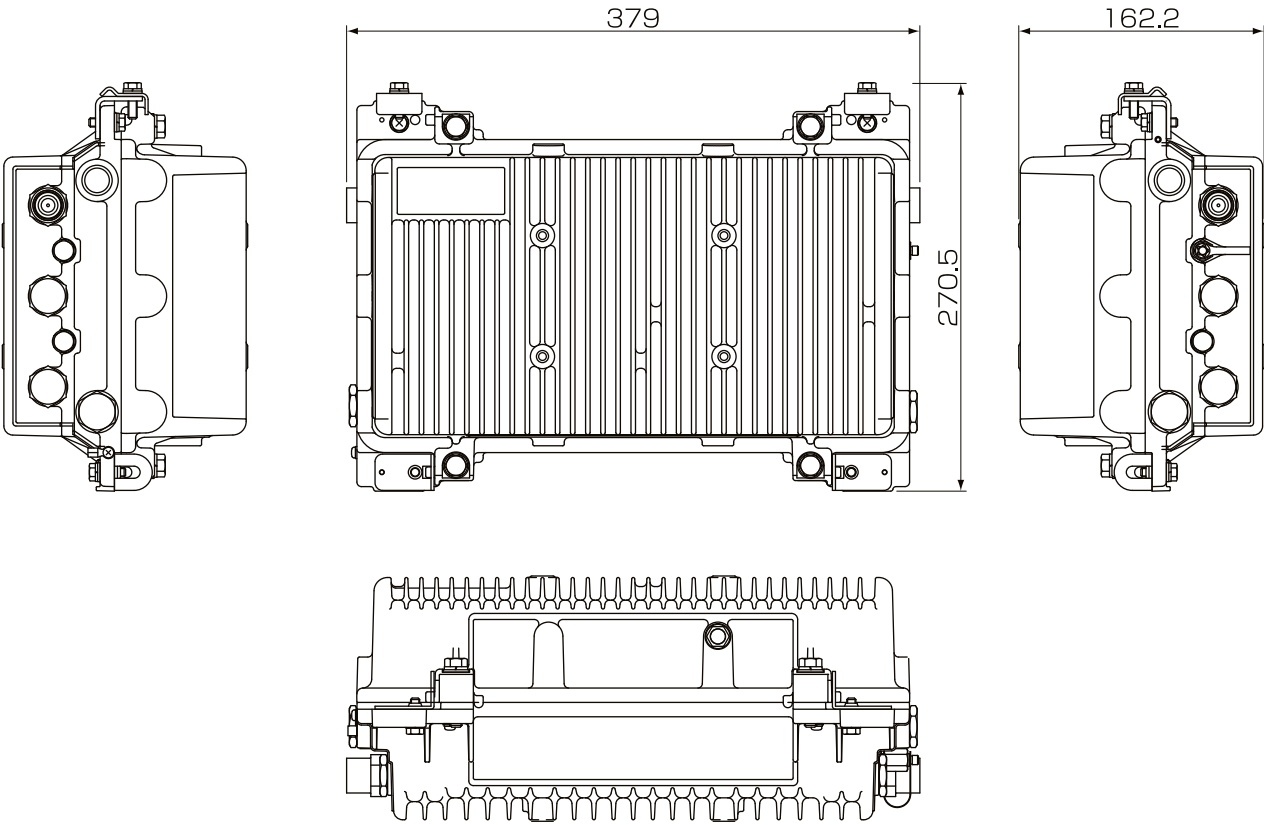
注1) デジタルはアナログから -10dB運用

注2) 雑音指数は入力BON・EQ 0dB時

(2) ブロックダイアグラム



8. 外 観 図



(単位：mm)

TA8134

9. 備考

BONスイッチ減衰量 (dB)

※BONスイッチ表示dBは770MHz値

周波数 (MHz)	1dB	2dB	3dB	4dB	5dB	6dB	7dB	8dB	9dB	10dB
70	0.27	0.55	0.82	1.09	1.37	1.64	1.92	2.19	2.46	2.74
100	0.34	0.68	1.02	1.37	1.71	2.05	2.39	2.73	3.07	3.42
150	0.42	0.84	1.26	1.68	2.10	2.52	2.94	3.35	3.77	4.19
200	0.49	0.98	1.46	1.95	2.44	2.93	3.42	3.91	4.39	4.88
250	0.54	1.09	1.63	2.18	2.72	3.27	3.81	4.35	4.90	5.44
300	0.60	1.21	1.81	2.42	3.02	3.63	4.23	4.84	5.44	6.05
350	0.65	1.31	1.96	2.61	3.27	3.92	4.57	5.23	5.88	6.53
400	0.70	1.40	2.11	2.81	3.51	4.21	4.92	5.62	6.32	7.02
450	0.75	1.49	2.24	2.99	3.73	4.48	5.22	5.97	6.72	7.46
500	0.79	1.59	2.38	3.17	3.97	4.76	5.56	6.35	7.14	7.94
550	0.84	1.68	2.51	3.35	4.19	5.03	5.87	6.70	7.54	8.38
600	0.88	1.75	2.63	3.50	4.38	5.25	6.13	7.00	7.88	8.75
650	0.91	1.83	2.74	3.66	4.57	5.49	6.40	7.32	8.23	9.15
700	0.95	1.90	2.84	3.79	4.74	5.69	6.64	7.58	8.53	9.48
750	0.99	1.97	2.96	3.95	4.94	5.92	6.91	7.90	8.89	9.87
770	1.00	2.00	3.00	4.00	5.00	6.00	7.00	8.00	9.00	10.00

周波数 (MHz)	11dB	12dB	13dB	14dB	15dB
70	3.01	3.28	3.56	3.83	4.11
100	3.76	4.10	4.44	4.78	5.12
150	4.61	5.03	5.45	5.87	6.29
200	5.37	5.86	6.35	6.83	7.32
250	5.99	6.53	7.08	7.62	8.16
300	6.65	7.26	7.86	8.47	9.07
350	7.19	7.84	8.49	9.15	9.80
400	7.73	8.43	9.13	9.83	10.54
450	8.21	8.96	9.70	10.45	11.20
500	8.73	9.52	10.32	11.11	11.91
550	9.22	10.06	10.90	11.73	12.57
600	9.63	10.50	11.38	12.26	13.13
650	10.06	10.98	11.89	12.81	13.72
700	10.43	11.37	12.32	13.27	14.22
750	10.86	11.85	12.84	13.82	14.81
770	11.00	12.00	13.00	14.00	15.00

EQユニット (EQU-13□□) 減衰量 (dB) ※EQユニット表示dBは70MHz値

周波数 (MHz)	1dB	2dB	3dB	4dB	5dB	6dB	7dB	8dB	9dB	10dB
70	1.09	1.82	3.27	4.00	4.72	6.18	6.90	8.35	9.08	9.81
100	0.99	1.65	2.96	3.62	4.28	5.60	6.26	7.57	8.23	8.89
150	0.87	1.45	2.61	3.20	3.78	4.94	5.52	6.68	7.26	7.84
200	0.77	1.28	2.30	2.82	3.33	4.35	4.86	5.89	6.40	6.91
250	0.68	1.14	2.05	2.51	2.96	3.87	4.33	5.24	5.70	6.15
300	0.59	0.99	1.78	2.17	2.57	3.36	3.76	4.55	4.94	5.34
350	0.52	0.87	1.56	1.91	2.25	2.95	3.29	3.99	4.33	4.68
400	0.45	0.74	1.34	1.64	1.93	2.53	2.83	3.42	3.72	4.02
450	0.38	0.63	1.14	1.40	1.65	2.16	2.41	2.92	3.17	3.43
500	0.31	0.52	0.93	1.14	1.34	1.75	1.96	2.37	2.58	2.79
550	0.24	0.41	0.73	0.89	1.05	1.38	1.54	1.86	2.02	2.19
600	0.19	0.31	0.56	0.69	0.81	1.06	1.18	1.43	1.56	1.68
650	0.13	0.21	0.38	0.47	0.55	0.72	0.81	0.98	1.06	1.15
700	0.08	0.13	0.23	0.29	0.34	0.44	0.50	0.60	0.65	0.70
750	0.02	0.03	0.06	0.07	0.08	0.11	0.12	0.15	0.16	0.17
770	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

※EQユニット表示dBは70MHz値

周波数 (MHz)	11dB	12dB	13dB	14dB	15dB	16dB
70	11.26	11.99	13.44	14.16	14.89	15.61
100	10.21	10.87	12.18	12.84	13.50	14.15
150	9.00	9.58	10.74	11.32	11.91	12.48
200	7.93	8.45	9.47	9.98	10.49	11.00
250	7.07	7.52	8.43	8.89	9.34	9.80
300	6.13	6.52	7.31	7.71	8.10	8.50
350	5.38	5.72	6.42	6.76	7.11	7.45
400	4.61	4.91	5.51	5.80	6.10	6.40
450	3.93	4.19	4.69	4.95	5.20	5.45
500	3.20	3.40	3.82	4.02	4.23	4.44
550	2.51	2.67	3.00	3.16	3.32	3.48
600	1.93	2.06	2.31	2.43	2.56	2.68
650	1.32	1.40	1.57	1.66	1.74	1.83
700	0.81	0.86	0.96	1.02	1.07	1.12
750	0.20	0.21	0.23	0.25	0.26	0.27
770	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

詳しいお問合せは、もよりのDX製品取扱店または下記のDXアンテナ各営業所をご利用ください。

- ・札幌支店 TEL.(011)822-1251(代)

・旭川出張所 TEL.(0166)37-5830(代)

・東北支店 TEL.(022)243-2141(代)

・盛岡出張所 TEL.(019)636-1581(代)

・郡山出張所 TEL.(024)921-7131(代)

・東京支店 TEL.(03)3526-5402(代)

・東京東出張所 TEL.(03)5654-9881(代)

・多摩営業所 TEL.(042)572-4911(代)

・横浜支店 TEL.(045)651-2557(代)

・北関東支店 TEL.(048)652-3311(代)

・宇都宮営業所 TEL.(028)659-1100(代)

・新潟営業所 TEL.(025)276-2166(代)

・茨城営業所 TEL.(029)826-5341(代)

・千葉支店 TEL.(043)253-1121(代)

・静岡営業所 TEL.(054)281-0141(代)

・浜松営業所 TEL.(053)461-6885(代)

・中部支店 TEL.(052)919-6531(代)

・松本営業所 TEL.(0263)27-7801(代)

・豊橋営業所 TEL.(0532)57-2133(代)

・三重出張所 TEL.(059)226-1643(代)

・金沢支店 TEL.(076)261-9988(代)

・富山営業所 TEL.(076)422-7878(代)

・大阪支店 TEL.(06)6304-5651(代)

・堺営業所 TEL.(072)278-5311(代)

・京都営業所 TEL.(075)382-6141(代)

・神戸支店 TEL.(078)579-8550(代)

・姫路出張所 TEL.(079)283-5920(代)

・広島支店 TEL.(082)237-5331(代)

・岡山営業所 TEL.(086)245-2948(代)

・山陰出張所 TEL.(0853)24-2343(代)

・高松営業所 TEL.(087)868-1222(代)

・松山営業所 TEL.(089)925-3826(代)

・福岡支店 TEL.(092)541-0168(代)

・北九州営業所 TEL.(093)922-6556(代)

・長崎出張所 TEL.(095)842-0780(代)

・大分営業所 TEL.(097)504-7799(代)

・熊本営業所 TEL.(096)325-0711(代)

・南九州営業所 TEL.(099)267-8211(代)

・沖縄営業所 TEL.(098)874-6202(代)

(2010年5月現在)

DXアンテナ株式会社